

報 告

第30回日本臨床環境医学会学術集会を終えて

柳 宇

第30回日本臨床環境医学会学術集会 会長

第30回日本臨床環境医学会学術集会は2022年6月25日（土）、26日（日）の両日に工学院大学新宿キャンパスとオンラインのハイブリッド形式で開催されました。ハイブリッド形式の開催は本学会にとって初の試みです。以下に本学術集会の概要について紹介します。

特別講演2件、特別シンポジウム講演4件、分科会報告3件、一般研究発表43件、参加者数は特別講演とシンポジウムを含めると110名でした。そのうち、非会員が41名であり、本学術集会に対する注目度の高さが窺えます。

■特別講演

特別講演1

相澤好治（北里大学 名誉教授）：「日本臨床環境医学会の歩み」

特別講演2

吉野 博（東北大学 名誉教授）：「温熱・空気環境と健康～これまでの歩みとこれから」

■第30回特別シンポジウム

講演1

忽那賢志（大阪大学 医学系研究科教授）：「新型コロナウイルス感染症 医療現場」

講演2

斎藤智也（国立感染症研究所 感染危機管理研究センター長）：「新型コロナウイルス感染症とクラスター対策」

講演3

倉淵 隆（東京理科大学 副学長・教授）：「感染確率に基づく新型コロナウイルス感染症対策の評価について」



写真1 学術集会ホームページ

講演4

伊藤一秀（九州大学 総合理工研究院教授）：「室内環境中での経気道感染を予測する *in silico* モデルと可視化」

■分科会セッション

日本臨床環境医学会では現在3つの分科会が活動しています。各分科会からそれぞれ活動報告をして頂きました。

- ・環境アレルギー分科会活動報告（平 久美子）
- ・環境過敏症分科会活動報告（北條祥子、水越厚史、黒岩義之）

- ・病院・高齢者施設環境分科会活動報告（柳 宇）

■一般研究発表

一般研究発表の講演時間が7分、質疑が3分とし、43件のご講演を頂きました。以下に各セッションと発表件数を示します。

- ・環境過敏症の実態・対策（6件）
- ・室内環境（4件）
- ・環境過敏症の要因（6件）
- ・環境過敏症の診断基準（5件）
- ・環境過敏症関連疾患（8件）
- ・環境解析（5件）
- ・感染症対策（9件）

一般研究発表を対象に会長賞1件と奨励賞2件の選考を行い、学術集会二日目の最後に下記の方々に賞状を授与させていただきました。

【会長賞】

平 久美子（東京女子医科大学附属足立医療センター）

演題：「有機農産物摂取が尿中ネオニコチノイド排泄に与える影響」

【奨励賞】

徳村雅弘（静岡県立大学食品栄養科学部）

演題：「ヒト健康リスク低減に対しコストパフォーマンスに優れた室内空気清浄法の検討」

畑中朋美（城西大学薬学部）

演題：「フタル酸ジブチルの皮膚内代謝に及ぼすカルボキシエステラーゼと神経障害標的エステラーゼの影響」

本学術集会は、工学院大学の共催、公益社団法人空気調和・衛生工学会と一般社団法人室内環境学会の後援をいただき、工学院大学の施設を使用料なしで実施しました。また、開催に当たっては木村穰総務理事、第29回学術集会会長の関根嘉香理事のご指導とご協力に感謝申し上げます。さらに本大会実行委員会委員長鍵直樹先生、実行委員金勲先生、篠原直秀先生、森本正一様、水越厚先生、尾方壮行先生の献身的なご尽力で、学術集会が盛会のうちに終えることができました。大会期間中や開催後に多くの方から感謝のお言葉とメールをいただきました。この紙面を借りて心から大会参加者の皆様に感謝申し上げます。

第30回日本臨床環境医学会学術集会実行委員会

会 長	柳 宇	工学院大学 建築学部 建築学科 教授
委 員 長	鍵 直樹	東京工業大学 環境・社会理工学院 建築学系 教授
実行委員	金 勲	国立保健医療科学院 生活環境研究部 上席主任研究官
	篠原直秀	産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員
	森本正一	新菱冷熱工業株式会社 経営企画本部 中央研究所 主査
	水越厚史	近畿大学 医学部 環境医学・行動科学教室 講師
	尾方壮行	東京都立大学 都市環境学部 建築学科 助教